

令和5（2023）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

種名	メジナ	対象水域	日本海西・東シナ海
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、山口県水産研究センター、福岡県水産海洋技術センター、長崎県総合水産試験場、佐賀県玄海水産振興センター、熊本県水産研究センター		

1. 調査の概要

山口県、福岡県、長崎県、佐賀県、熊本県における主要港または主要市場の水揚量を集計し、漁獲状況を把握した。また、機構、山口県、福岡県および熊本県で体長測定、機構および山口県で精密測定を実施した。

2. 漁業の概要

対象5県のデータが揃う2013年以降では、日本海西・東シナ海における漁獲量（熊本県～山口県各県の主要港・市場の合計）は年間104～202トンで、県別では長崎県、佐賀県および熊本県の漁獲量が多い（図1、表1）。月別には12月～翌年5月の冬～春季に漁獲量が多く、7～10月に減少する（図2）。山口県の漁業種類別漁獲量は、浅海で行われる定置網（小型定置網）および刺網（磯建網）漁業の割合が高い（図3）。漁獲物の尾叉長組成は250～310 mmにモードが観察された（図4）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：新潟県～九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、千葉県～九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海に主に分布する（中坊・土井内 2013）。0～1歳魚は水深5 m以浅で生活し、2～3歳魚は水深5～10 mの岩礁付近に出現する（三郎丸・塚原 1984）。
- (2) 年齢・成長：佐世保産メジナの成長式はt歳の体長をLt (mm) とすると、雄： $Lt = 380(1 - e^{-0.2106t - 0.1215})$ 、雌： $Lt = 380(1 - e^{-0.1852t - 0.0775})$ であると報告されている（水江ほか 1961）。
- (3) 成熟・産卵：佐世保では雌雄ともGI（生殖腺指数）が5月に急増し、6月に急減するので5月に産卵すると推定されている（水江・三上 1960）。
- (4) 被捕食関係：体長50～140 mmでは海藻、付着珪藻を主に摂餌する（三郎丸・塚原 1984）。

4. 資源状態

資源水準を判断できる長期の漁獲量や資源量指標値が得られていないため、資源水準

は不明である。2013年以降の各県漁獲量の集計によると、漁獲量は2013年の202トンピークとして2018年まで減少傾向を示したが、直近5年間（2018～2022年）はほぼ横ばいで推移しているため、資源動向は横ばいと判断した。

5. その他

浅海域において混獲される魚種で重要魚種ではないため、資源管理の取組は行われていない。資源評価を行うためには、生物情報や漁獲情報のさらなる収集に努める必要がある。

6. 引用文献

- 中坊徹次・土井内龍 (2013) メジナ科. 「日本産魚類検索 全種の同定」. 東海大学出版会, 秦野, pp 1077
- 水江一弘・三上健彦 (1960) メジナ生殖巣の成熟及び季節的循環に関する研究. 長崎大学水産学部研究報告, 9, 18-31.
- 水江一弘・小川能永・藤森常生 (1961) メジナの年令と成長について. 長崎大学水産学部研究報告, 10, 1-14.
- 三郎丸隆・塚原 博 (1984) 福岡北部沿岸におけるメジナの生活史. 九州大学農学部学芸雑誌, 39, 35-48.

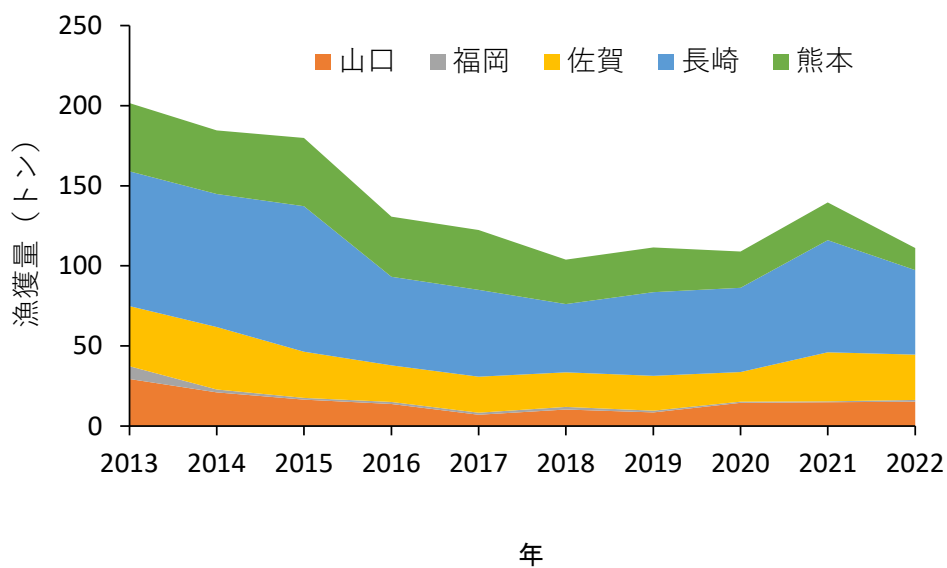


図1. メジナの年別県別漁獲量

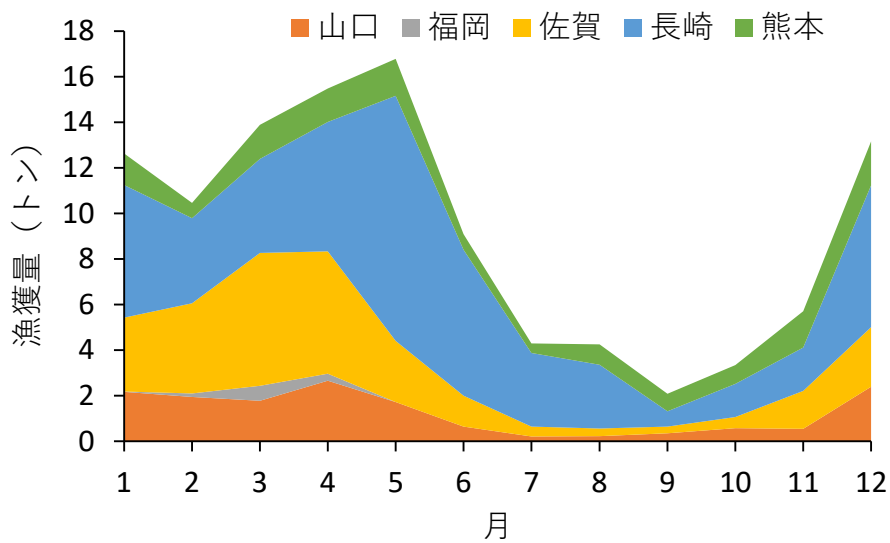


図2. 2022年のメジナの月別県別漁獲量

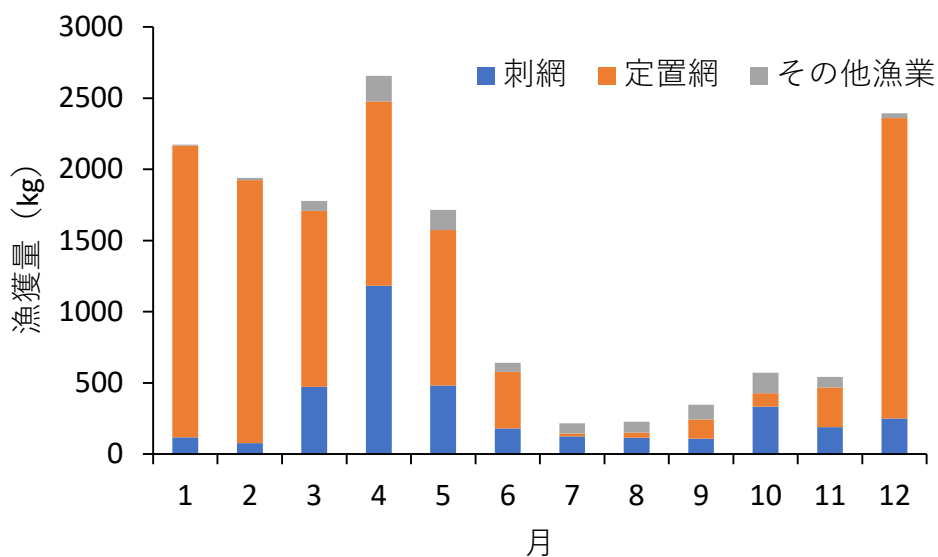


図3. 2022年の山口県の代表2市場におけるメジナの月別漁業種類別漁獲量

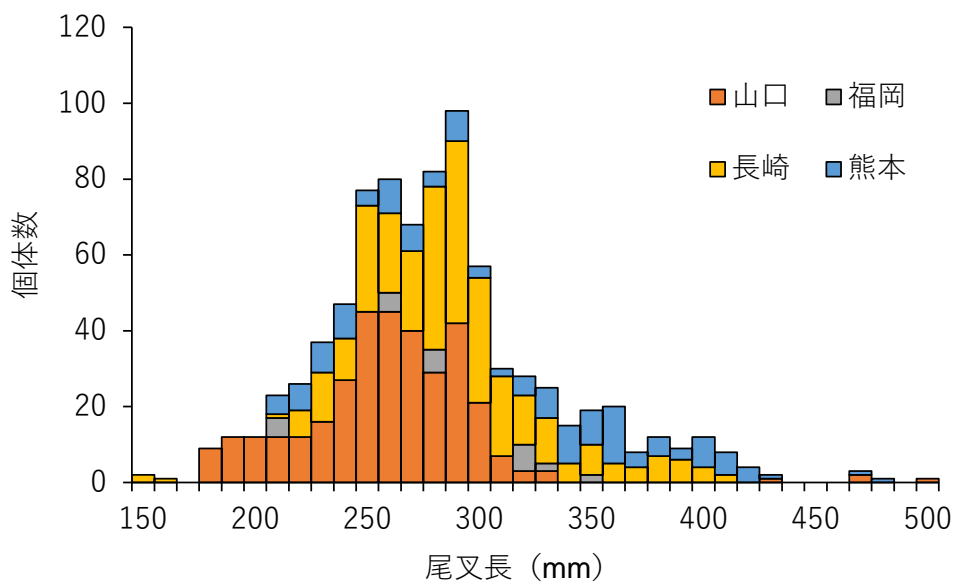


図4. 水揚げされたメジナの県別尾叉長組成 (2022年)

表 1. メジナの県別年別漁獲量

年	漁獲量 (kg)					計
	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	
2007			13,728			13,728
2008			42,751			42,751
2009			50,950			50,950
2010	19,899		23,865	23,185		66,948
2011	19,158	4,411	32,027	90,717		146,313
2012	10,164	6,016	28,454	113,417	34,682	192,733
2013	29,356	8,061	37,530	83,985	42,655	201,587
2014	21,122	1,664	38,971	83,092	39,755	184,604
2015	16,482	1,056	28,967	90,769	42,468	179,742
2016	13,711	1,318	22,789	55,446	37,378	130,642
2017	6,998	1,399	22,480	54,106	37,439	122,422
2018	10,370	1,552	21,587	42,668	27,653	103,830
2019	8,549	1,160	21,734	52,075	28,036	111,554
2020	14,427	872	18,421	52,508	22,772	109,000
2021	14,926	464	30,735	69,827	23,677	139,629
2022	15,197	1,128	28,273	52,814	13,763	111,174

山口県は 2012 年までは代表 1 市場、2013 年以降は代表 2 市場の漁獲量。

福岡県は代表 1 漁港の漁獲量。

佐賀県は代表 1 市場の漁獲量。

長崎県は代表 1 市場の漁獲量。

熊本県は代表 1 漁協の漁獲量。